

## 地域包括ケアネットワーク No.49

### 岡山市版オレンジプランについて

岡山市居宅介護事業者連絡協議会会長 草野 功

平成24年、厚労省は「認知症対策国家戦略=オレンジプラン」を発表した。このプランを基に岡山市認知症施策推進検討会において検討の結果「岡山市版オレンジプラン」が策定され、平成26年4月に公表された。

厚労省は高齢人口の増加に伴い、今年6月17日オレンジプランの目標値を引き上げる方針をかためた新オレンジプランを公表している。

プランは以下の4つの視点をポイントとしている。

- ① 早期発見・早期診断により、適切なケア体制を確立する
- ② 認知症の人が地域で安心して生活できるように、地域の見守り体制を確立する
- ③ 岡山の地域資源を生かし、保健・医療・福祉・介護等の切れ目のないネットワークを構築する
- ④ 認知症の人や家族への支援を強化する

以下に成果・現状について記載する。

- ①・③成果：平成26年12月、認知症支援チーム（現認知症初期集中支援チーム）による支援を開始。認知症初期集中支援チームは認知症が疑われる方やその家族などの相談を受け、相談内容に応じて家庭訪問などで自宅での自立生活をサポートする。認知症サポート医である専門医・看護師・社会福祉士等から成るチームが、本人の様子の確認や家族への助言などの支援を初期に様々な面から集中的に行い、早期発見、早期診断につなげている。高齢者にとって一番身近な窓口である地域包括支援センターにもチーム員を配置し、これにより地域包括支援センターとの連携がしやすくなり、より早期に切れ目のないネットワーク構築ができる体制となった。
- ② 成果：認知症高齢者見守り事業（行方不明高齢者さがしメール・認知症身元不明高齢者一時保護）を実施。警察や消防との関係を密にし、認知症高齢者が行方不明になった際、速やかに発見するためのメール配信システムを構築している。また、徘徊により警察に保護された認知症高齢者と思われる者のうち、身元不明で警察から岡山市へ保護依頼のあった者を老人福祉施設で一時保護している。  
認知症サポーターなどの養成の継続実施。
- ④ 成果：認知症カフェ6カ所（各福祉区1カ所）を設置。認知症の人とその家族、地域住民、専門職が集い、認知症の人を支えるつながりを支援し、家族の介護負担の軽減等を図っている。また、地域包括支援センターに配置している認知症地域支援推進委員の働きかけにより、認知症カフェ設置数の増加と認知症カフェ認知度の拡大を推進している。

以上、今後増大する認知症患者への対応は地域全体で取り組まなければならない大きな課題である